

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	宛 彪
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>現代中国における小学校社会系教科授業改革の展開と特質 — 「道徳性」と「社会認識」の統一的育成の視点から —</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 小 原 友 行 審査委員 教 授 池 野 範 男 審査委員 教 授 棚 橋 健 治 審査委員 教 授 木 村 博 一 審査委員 教 授 山 元 隆 春 審査委員 教 授 草 原 和 博 審査委員 准教授 永 田 忠 道</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、現代中国における小学校社会系教科授業改革の展開を、「道徳性」と「社会認識」の統一的育成の視点から考察し、その特質と課題を明らかにすることを目的としている。</p> <p>論文は、序章から終章までの12の章で構成されているが、大きくは、小学校社会系教科授業改革の歴史的展開と課題を解明した第一部（第1章）、教科書・教師用指導書の分析を通して社会系教科授業改革の類型的展開とその特色を解明した第二部（第2章～第8章）、授業実践の分析を通して「道徳性」と「社会認識」を統一的に育成する学習指導法改革の特色を解明した第三部（第9章～第10章）の三部構成になっている。</p> <p>序章では、「素質教育改革」の一環として始まった中国における小学校社会系教科教育の改革を、「思想品德」と「社会」という2つの教科の統合に向けての改革、「道徳性」と「社会認識」を統一的に育成するカリキュラムや教科書の開発という内容面での改革、新しい学習指導法を取り入れた授業の改革という3つの側面の改革としてとらえ、「道徳性」と「社会認識」をどのようにして統一的に育成しようとしているのか、教科書・教師用指導書や実践レベルにおいては、それらを統一的に育成するためにどのような授業構成が求められていたのか、それは「素質教育改革」のねらいをどの程度達成することができていたのかという基本的な研究課題を明確にした上で、本研究の具体的な目標、研究方法と論文構成、特質と意義を述べている。</p> <p>第一部の第1章では、「素質教育改革」に伴って成立した新教科「品德と社会」の展開過程を明らかにするとともに、どのようにして「道徳性」と「社会認識」を統一的に育成していくのか、また、そのために具体的な単元の授業をどのように構成し展開していくのか、カリキュラム編成や授業構成にあたっての大きな課題であったことを指摘している。</p> <p>第二部の第2章では、現代中国における小学校社会系教科の教科書・教師用指導書の性格や内容は多様なものとなっているが、「道徳性」重視か「社会認識」重視かという類型化の指標によって大きく分類すると、「道徳性重視型」「道徳性と社会認識の折衷型」「社会認</p>			

識重視型」「完全社会認識型」の4種類に分けることができることを明らかにしている。

第3章では、「道徳性重視型」の代表例として江蘇教育出版社版の第6学年単元「地球は病気になる」を、第4章では、「道徳性と社会認識の折衷型」の代表例として人民教育出版社版の第6学年単元「人類の家」を、第5章では、「社会認識重視型」の全国版の代表例として北京師範大学出版社版の第6学年単元「地球のガードマンになろう」を、第6章では、「社会認識重視型」の地方版の代表例である上海科学技術教育出版社版の第3学年単元「ごみのゆくえを探そう」を、そして第7章では、「完全社会認識型」の代表例として東北師範大学附属小学校の教材集の第5学年単元「我々の生活と情報」を取り上げ、それぞれの授業構成の特質を明らかにしている。

第8章では、第3～7章で取り上げた単元の授業構成の比較を通して、類型的展開から見た社会系教科授業改革の特質を明らかにしている。

第三部では、第二部で明らかにした教科書・教師用指導書レベルでの授業改革が、授業実践レベルではどのように展開しているのかを明らかにするために、第9章では課程標準の編集者たちによって作成されてきたモデル教科書の一つである北京師範大学出版社版の教師用指導書所収の授業計画を、第10章では中国の教育学会が改革に伴う「品德と社会」の優れた実践として評価している『2013年度全国優れたモデル授業集録（「品德と社会」）』に所収のモデル授業実践を分析することを通して、両者共に、「理解型」「探究型」「問題解決型」という3つの学習指導法の改革が見られることを明らかにしている。

終章では、現代中国における小学校社会系教科授業改革の全体的な特質をまとめるとともに、いまだ「理解型」の授業が圧倒的に多いことや、教師中心の「受動的解説型」授業からの脱皮を目指しながらも依然として完全に克服できていない点など、課題も残されている点を指摘している。また、課題を克服するためのこれからの中国における小学校社会系教科授業改革の方向性を提案している。

本研究は、以下の3点で評価できる。

1点目は、「素質教育改革」に伴う小学校社会系教科授業改革の課題であったと考えられる「道徳性」と「社会認識」の統一的育成という視点から、改革の歴史的展開、教科書・教師用指導書にみる授業構成の類型的展開、さらには授業実践にみる学習指導法改革の展開を考察し、改革の全体像とその特質を明らかにしていることである。

2点目は、先行研究が課程標準や教科書の分析にとどまっていたのに対して、「道徳性」と「社会認識」の統一的育成をねらいとした典型的な教師用指導書や実践プランの分析を通して、授業実践レベルでの改革の特質と課題を明らかにしている点である。

そして3点目は、現代中国において多様に試みられている社会系教科授業改革の取り組みを評価するとともに、それに基づいて、今後の中国における授業改革の方向性を提言している点である。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成27年12月 7日